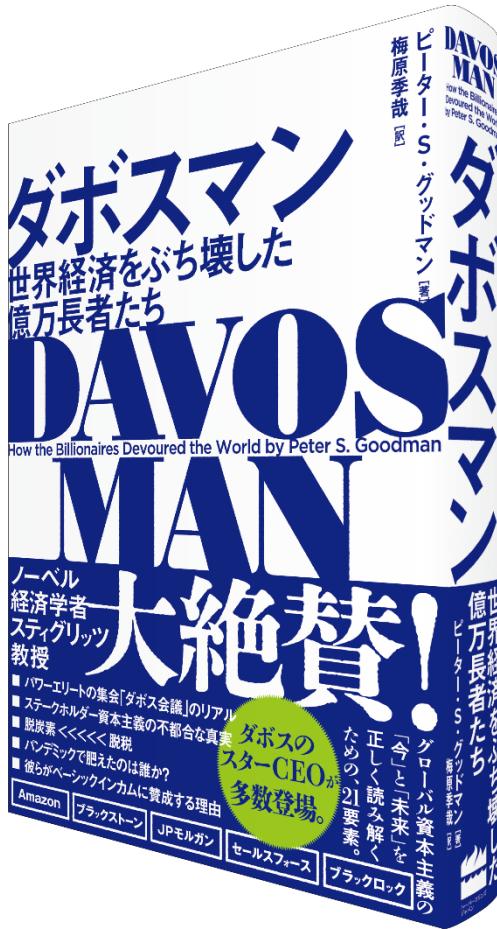


ノーベル経済学者ジョセフ・E・スティグリツ教授絶賛！ グローバル経済の途方もない嘘を明かす全米ベストセラー 『ダボスマン 世界経済をぶち壊した億万長者たち』7/1 刊行。

株式会社ハーパーコリンズ・ジャパン（本社：千代田区／代表：鈴木幸辰）は2022年7月1日、話題の全米ベストセラー『ダボスマン 世界経済をぶち壊した億万長者たち』（ピーター・S・グッドマン/梅原季哉訳）を刊行いたします。

ピュリッツァー賞ノミネート記者がグローバリズムに隠された驚愕の「搾取のシステム」に迫る“激辛”経済ノンフィクションの本書には、雇用、税制、ベーシックインカム、投資、医療などいま知っておきたいトピックが満載。パンデミック後の新しい経済の時代に必読の1冊です。



“ダボスマン”=世界経済フォーラムの年次総会“ダボス会議”に集う、名だたる超富裕層たちの呼称

5月22日～26日までスイスで開催され、約100カ国から約2500人の企業家や政財界のリーダーが参加したダボス会議。新型コロナの影響で2年ぶりの対面開催となった今回は、世界経済を主軸にパンデミックからウクライナ情勢、テクノロジーまで様々な社会的課題が話し合われ、なかでも企業が株主だけでなく従業員や消費者、すべての関係者の利益に配慮する「ステークホルダー資本主義」の概念は、岸田首相の掲げる「新しい資本主義」に影響を与えたとも言われています。しかし、まぶしい理念とは裏腹に、ダボスに集う超富裕層たちこそが経済をぶち壊してきたと、長年会議を取り材してきた著者グッドマンは痛烈に指摘します。

<お問い合わせ先>

株式会社ハーパーコリンズ・ジャパン 一般書籍編集部/小野寺 TEL: 050-1790-0953 MAIL: press@harpercollins.co.jp

富裕層はなぜますます金持ちになり、庶民の暮らしはなぜますます苦しくなるのか？

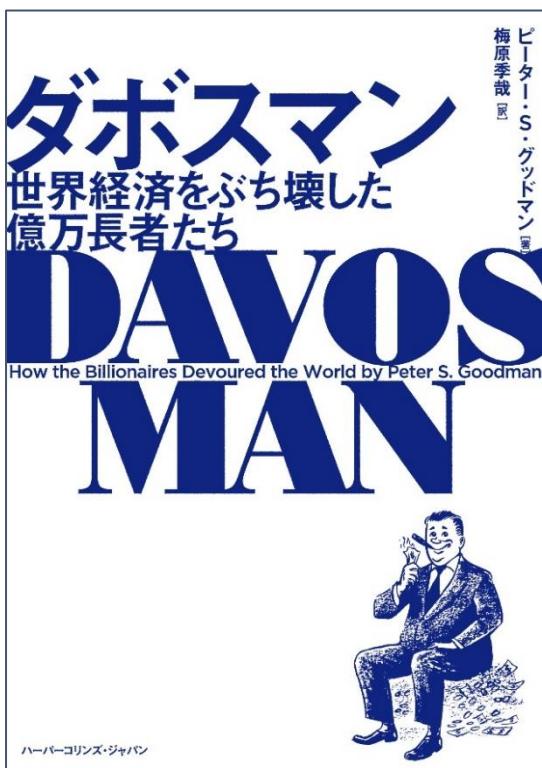
- ・世界的にみると、最も豊かな 10 人の超富豪の財産を合計するだけで、最も貧しい 85 力国の経済規模を上回る。
- ・2030 年までに 10 億人が極端な貧困へと陥るリスクにさらされている。
- ・米国の典型的な上場企業 C E O の報酬は一般人の 278 倍（半世紀前は 20 倍）。
- ・2019 年の世論調査によると、77% のイタリア人が今の経済状況は悪いと答え、73% が政治家は庶民の暮らし向きに関心がないと答えている。
- ・家賃が払えないため、スウェーデンの若者の 4 人に 1 人が両親と同居している
- ・ダボスマンは世界各地の租税回避地（タックスヘイブン）に、全世界の家計収入総額の 8 % にあたる約 7 兆 6000 億ドルを秘蔵している。

本文より――

グローバル化によって国境を超えて流通する利益を手にしたダボスマンたちは、いかに都合よく世界のルールを決め、豊かになり続けてきたのか？ 本書では Amazon、JP モルガン、セールスフォース、ブラックロック、ブラックストーン、5 つの巨大企業 CEO に注目。ステークホルダー資本主義の不都合な真実／脱炭素 × 脱税／パンデミックでますます肥えたのは誰か？／ダボスマンがベーシックインカムに賛成する理由／優等生スウェーデンの失敗など、世界を股にかけるダボスマンたちの実態を痛快にあぶり出しながら、資本主義経済の「今」と「未来」を正しく読み解くための 21 の要素を詳解します。ノーベル経済学賞受賞のジョセフ・E・スティグリツ教授をはじめ、〈ニューヨーク・タイムズ〉〈ウォール・ストリート・ジャーナル〉〈エコノミスト誌〉ほか各方面が絶賛する旬の作品、ぜひご注目ください。

『ダボスマン 世界経済をぶち壊した億万長者たち』ピーター・S・グッドマン著/梅原季哉訳 ハーパーコリンズ・ジャパン刊

2022 年 7 月 1 日発売 定価本体 2200 円+税 ISBN978-4-596-70832-8 / A5 判・488 ページ



著者プロフィール

ピーター・S・グッドマン(Peter S. Goodman)

ニューヨーク・タイムズ紙のグローバル経済担当記者。ワシントン・ポスト紙でテクノロジー担当記者、アジア経済特派員・上海支局長として活躍後、ニューヨーク・タイムズに移籍。世界金融危機に関する報道でリーダーシップを執り、そのシリーズ記事がピュリツツァー賞の最終選考に選ばれた。ジェラルド・ローブ賞をはじめ数々の受賞歴を誇る。

訳者プロフィール

梅原季哉(Toshiya Umehara)

ジャーナリスト。朝日新聞に 2021 年まで在籍し、ブリュッセル、ウィーン、ワシントン特派員などとして主に国際報道に携わる。2016 年にはロンドンのヨーロッパ総局長として、ブレグジット国民投票の取材を現地で統括。著書に『戦火のサラエボ 100 年史「民族浄化」もう一つの真実』(朝日新聞出版)など。

<お問い合わせ先>

株式会社ハーパーコリンズ・ジャパン 一般書籍編集部/小野寺 TEL : 050-1790-0953 MAIL : press@harpercollins.co.jp

Contents--

プロローグ ダボスマンが世界のルールを作る

第1部 地球規模の略奪者

- 第1章 ダボスマンとその生息地
- 第2章 グローバル化に毒を盛ったダボスマン
- 第3章 ダボスマンの先祖たち
- 第4章 ダボスマンとブレグジット
- 第5章 ダボスマンのフランス大統領
- 第6章 ダボスマンはどうスウェーデンを征服したか
- 第7章 ドナルド・トランプのダボス道中

第2部 パンデミックでも勝ち組

- 第8章 ダボスマンは医療もぶち壊す
- 第9章 ダボスマンは非常事態を見過ごさない
- 第10章 年金を食い物にしたダボスマン
- 第11章 ダボスマン、愛の言葉を囁く
- 第12章 ダボスマンと労働環境
- 第13章 ダボスマンの欧州失敗譚
- 第14章 ダボスマンがワクチンを配ったら
- 第15章 ダボスマンの無慈悲な借金取り立て

第3部 歴史を再起動するとき

- 第16章 バイデン、ダボスマンの地位をリセットする
- 第17章 ダボスマンをバイパスする方法
- 第18章 ベーシックインカムはダボスマンを駆逐するか
- 第19章 ダボスマン VS 規制当局
- 第20章 ダボスマンに勘定を回す
- 最終章 ダボスの魔法が解けた世界へ

担当編集者コメント 一般書籍編集部編集長 小野寺志穂

円安に物価上昇、上がらない給料に重い税金、年金問題……生活を直撃するお金まわりのニュースが山積で、日本はそもそも本当にやばいのでは？と危機感を覚える昨今ですが、本書を読むとやばいのは日本だけじゃなかった！ と悪い意味で安心させられます。むしろ世界では庶民と富裕層の経済格差が超弩級に広がっていて、あまりのスケールの違いに想像力が追いつかないほど。著者グッドマンはその諸悪の根源が「ダボスマン」だと一刀両断、なかでも代表的なダボスマンとして巨大グローバル企業のCEOを実名で列挙し、彼らの所業をつまびらかにします。Amazon や JP モルガン、セールスフォース、IKEA や ZARA といった馴染みある企業名が多数登場。ダボス会議のアジェンダのようにきれいにお化粧された「搾取のシステム」が容赦なく明かされてゆくだりは、サスペンス小説のように引き込まれます（ある企業が巧妙に税を逃れて利益を吸い上げてゆく手口を読んだときは、怒りを通り越し、なつか感心したくなりました）。

アフター・コロナ時代の経済を見通すための知見にあふれたノンフィクションであると同時に、“怒りの経済デスロード”とでも呼びたくなる著者の切れ味鋭い筆致が面白くて、ハードなテーマにもかかわらずどんどんページをめくってしまうパワーにあふれています。プロローグだけでも一読の価値ありの本書、ぜひお手にとってみてもらえた幸いです。

<お問い合わせ先>

株式会社ハーパーコリンズ・ジャパン 一般書籍編集部/小野寺 TEL : 050-1790-0953 MAIL : press@harpercollins.co.jp